

平成28年 9月29日
岐阜県立飛騨高山高等学校
国土交通省高山国道事務所

飛騨高山高校の生徒による昆虫類(バッタ)調査 ～高山西ICビオトープ“飛騨の森再生”～

- 概要 : 高山西インターチェンジ内のビオトープにおいて、飛騨高山高校の生徒たちが、秋に見られる昆虫類(バッタ)の採集方法などを学び、ビオトープの環境について確認できたバッタを用い簡単な評価を行います。
- 日時 : 平成28年10月 3日(月) 13:30～15:30
(予備日: 10月17日(月) 13:30～15:30)
- 場所 : 中部縦貫自動車道高山清見道路 高山西インターチェンジ内
ビオトープ“飛騨の森再生”(高山市清見町牧ヶ洞地内)
- 参加者 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 環境科学科 2年生 5名
国土交通省高山国道事務所 職員
- 添付資料 : 別紙のとおり
- 配布先 : 高山記者クラブ
- 問合せ先 : 岐阜県立飛騨高山高等学校 山田キャンパス
環境科学科 遠藤 貴史(えんどう たかふみ)
TEL 0577-33-1060
FAX 0577-32-8994

国土交通省中部地方整備局 高山国道事務所
計画課長 奥田 清典(おくだ きよのり)
TEL 0577-36-3822
FAX 0577-36-3801



今年度6回目となる今回は、環境科学科2年生5名が参加して、ビオトープ内において秋に見られる昆虫類（バッタ）の調査を行います。バッタの仲間は昆虫の中でも生態や生息環境が比較的良好に知られており、また調査の際にも見つけやすく、その場で種名を調べることができる生き物です。また、移動性が少なく、生息環境の影響を強く受ける生物であることからバッタの仲間は草地の環境を指標する生物として、環境の状況を評価する材料として使われることがあります。

今回の学習では、バッタの採集方法や判別方法を学ぶとともに、現在のビオトープがバッタにとってどのような環境であるか、確認できたバッタを用いて簡単な評価を行います。

昨年度の学習状況(平成27年10月14日実施)



バッタの採集状況



採集状況



採集したバッタの分類

ビオトープで見られるバッタ類

平成16年11月の完成以降、平成17～21年と平成26年（整備後10年経過）に生物のモニタリング調査を行っています。調査によりビオトープでは11種のバッタ類が確認されています。（日本国内では119種、岐阜県内では37種確認）



トノサマバッタ



ナキイナゴ(初夏に出現)



イナゴモドキ



クルマバッタモドキ



ツマグロバッタ



コバネイナゴ